

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●内田博幸騎手がJRA通算1300勝を達成

2月5日(土)の1回東京3日・第2レースではニシノスーベニアが1着となり、同馬に騎乗した内田博幸騎手(美浦・フリー)は、史上26人目、現役では12人目となるJRA通算1300勝(1万2344戦目)を達成しました。

### ●高木登調教師と中内田充正調教師がJRA通算300勝を達成

2月5日(土)の1回東京3日・第3レースではドンレパルスが1着となり、同馬を管理する高木登調教師(美浦)は、現役70人目となるJRA通算300勝(延べ4087頭目)を達成しました。翌6日(日)の1回東京4日・第6レースではロールアップが1着となり、同馬を管理する中内田充正調教師(栗東)は、現役71人目となるJRA通算300勝(延べ1778頭目)を達成しました。開業後7年11か月6日での達成は、池江泰寿調教師(栗東)の8年2か月27日を抜いてJRA現役最速の300勝達成となります。

### ●世界のトップ100GIレースが決定

2021年世界のトップ100GI競走がIFHA(国際競馬統括機関連盟)から発表されました。12か国・41競馬場のGIがリストに名を連ね、年間レースレーティング124.75の凱旋門賞(仏)が1位を獲得。日本の競走では天皇賞(秋)の4位(123)を筆頭に、有馬記念、大阪杯、ジャパンカップ、東京優駿(日本ダービー)、宝塚記念、安田記念、マイルチャンピオンシップ、皐月賞、天皇賞(春)、菊花賞の計11競走がランクインしています。

### ●重賞ウィナー4頭の競走馬登録抹消

2017年菊花賞(GI)の勝ち馬キセキ(牡8歳/栗東・辻野泰之厩舎/JRA通算29戦4勝・海外4戦0勝)、2021年東京ハイジャンプ(J・GII)などの勝ち馬ラヴアンドポップ(牡9歳/美浦・岩戸孝樹厩舎/JRA通算22戦5勝)、2021年トヨタ賞中京記念(GIII)の勝ち馬アンドラスト(牝6歳/栗東・中内田充正厩舎/JRA通算15戦5勝)、2021年函館記念(GIII)などの勝ち馬トーセンスーリヤ(牡7歳/美浦・小野次郎厩舎/JRA通算34戦5勝・地方3戦1勝)は、1月12日(水)までに競走馬登録を抹消されました。キセキは北海道日高町のブリーダーズ・スタリオン・ステーションで種牡馬、アンドラストは北海道白老町の白老ファームで繁殖馬となり、ラヴアンドポップは乗馬となる予定ですが行き先は未定。トーセンスーリヤは地方・大井競馬場に移籍しています。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●ケイアイパープルが佐賀記念(佐賀)で重賞初制覇

佐賀記念(JpnIII、2月8日、佐賀、2000m)は、3～4番手から3コーナー過ぎに先頭に立った2番人気のケイアイパープル(藤岡康太騎手、牡6歳、父パイロ)が、アメリカンフェイスを5馬身引き離して圧勝。逃げた単勝1.7倍で断然人気のメイショウカズサは更に3馬身遅れの3着に後退し、3番人気のライトウォーリアは5着、ギベオンは6着に敗れています。

### ●フェブラリーS(東京)に船橋のミュウチャリーが登録

フェブラリーS(GI、2月20日、東京)に、ミュウチャリー(船橋)が登録しました。過去2年のフェブラリーSでは11、7着という成績で、上位争いに加わるのはちょっと難しそうです。

### ●花吹雪賞(佐賀)は高知のアンティキティラ【各地の主要3歳重賞】

花吹雪賞(1月23日、佐賀、1800m、牝馬)は、3番手前後を追走した単勝1.3倍で圧倒的人気の高知からの遠征馬アンティキティラ(父シニスターミニスター)が直線半ばで抜け出し、北海道在籍時からの連勝を5に伸ばしました。兵庫クイーンセレクション(1月20日、姫路、1400m、牝馬)は、逃げた3番人気のニネンビーグミ(父ホッコータルマエ)が、直線で一旦僅かに交わされながらもゴール寸前で差し返し、初の重賞制覇を果たしています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●G2アル・マクトゥームチャレンジR2はホットロッドチャーリー

2月4日にUAE・ドバイのメイダン競馬場で行われたG2アル・マクトゥームチャレンジラウンド2(北半球産馬4歳上、南半球産馬3歳上、ダート1900m)はアメリカから遠征中で、現地のW.ビューイック騎手が手綱を取ったホットロッドチャーリー(牡4歳、父オックスボウ、D.オニール厩舎)が2番手追走から直線で突き抜けて5.25馬身差の快勝。3月26日のG1ドバイワールドC(ダート2000m)の有力候補に名乗りを上げました。ホットロッドチャーリーは昨年3月のG2ルイジアナダービー(ダート1900m)をコースレコードで制して重賞初制覇。そこからはG1ケンタッキーダービー3着、G1ベルモントS2着、そしてG1ハスケルSが最下位(1位入線も走行妨害で降着)と3連敗となっていました。続く9月のG1ペンシルベニアダービー(ダート1800m)を2馬身1/4差で快勝してG1初制覇。その後、11月のG1ブリーダーズクラシック4着、昨年12月のG2サンアントニオS2着を経て、ここに臨んでいました。